

令和7年度分地域未来交付金事業効果検証結果シート
(各交付対象事業の重要業績評価指標（KPI）の実績値等)

○地域未来交付金（地域未来推進型）

No	事業名称	実績額 単位：千円	事業概要	重要業績評価指標 (KPI)	事業開始時		最終年度の目標		令和7年度時点 目標値 (KPI増加分の累計)	令和7年度時点 実績値 (KPI増加分)							達成状況	現状と未達成の理由			
					基準値	単位	年度	目標値 (KPI増加分の 累計)		1年目	2年目	3年目 (供用開始)	4年目	5年目	6年目	7年目			実績値 (R7時点累計)		
1	酒蔵建設 による白 川村の新 たな魅力 の創出と 村ごと6 次産業化 プロジェ クト	208,259	本事業は、世界遺産白川郷合掌造り集落から一級河川庄川を挟んだ対岸に渡辺酒造店（飛騨市古川町）の酒蔵を建設する事業である。 村のウィークポイントである2次産業の新たな拠点となる酒蔵を整備することによって、土壌のできている観光業と村唯一の1次産業である農業の懸け橋をつくり、酒米生産から販売までが全て村の中で完結する村ごと6次産業化を推進することを目的とする。6次産業化による影響は村全体に及び、村民の安定した経済基盤の構築、観光消費額の増加、さらには関係人口の増加、新たな移住・定住者の獲得、村内での経済循環システムの構築等、連鎖的な好循環が生み出され、持続可能な村づくりを可能とする。	①地域における観光消費額	8,305	百万円	R13	192.4	0	0	-	-	-	-	-	-		酒蔵開業前（建設中）			
				②地域の人口・世帯数（村のに担い手世代（20～39歳）の転出超過数）	4	人	R13	-5	0	0	-	-	-	-	-	-					
				③村内における売上高（渡辺酒造店製造酒）	6.76	百万円	R13	191.89	0	0	-	-	-	-	-	-					
				④アントレプレナーシップの醸成（将来、村でやりたいことを考えることがある白川郷学園5～9年生）	19	%	R13	51	0	0	-	-	-	-	-	-					
				⑤村内農家の酒米の出荷額	0	百万円	R13	30.99	0	0	-	-	-	-	-	-					
				⑥酒蔵の入込数	0	千人	R13	281.48	0	0	-	-	-	-	-	-					
				白川村総合戦略効果検証委員会における主な意見										意見を踏まえた事業改善及び今後の方向性							
				1. 醸造するお酒の種類、ブランド戦略について Q1. 将来村で作る酒米で、酒蔵で使用する全ての量が賄えるのか A1. 村内圃場面積には限りがあるため、全量を賄うことは不可能。白川村産の酒米で醸造するお酒は最上級ブランドとして販売するので、農家から買い取る酒米の価格にも反映させて好循環を生み出す。 Q2. 主食用米の「ゆうだい21」や「こしひかり」など、酒米以外での酒造りの可能性はあるか。 A2. 可能性としては十分に考えられる。民宿を巻き込んで米を作り、民宿限定のお酒なども作れるはず。いろいろな広がり期待されるので産業間連携を推進したい。 2. 雇用創出と教育連携、将来の「杜氏」輩出への期待について Q3. アントレプレナーシップ教育とはどう関係するのか A3. 新たな地域産業（酒蔵）と学校教育（白川郷学園）が連携し、蔵見学やお酒の作り方を学ぶ授業等を展開する。このことにより、今まで村にない新たな職業（杜氏、蔵人など）を目指したり、新しいことにチャレンジする考え方（＝起業家精神）の醸成が図られる。また事務職などはAIにとってかわられる時代となったが、建築や職人の世界は「自分の感性や個性」を活かしてモノを造り出す仕事であり、これからは特に大切になってくる。そういった感性を大事にする教育や職場体験の場として、この酒蔵を大いに活用していきたい。										酒米供給について、酒蔵側の需要にできるだけこたえられるよう、作付面積を増やしていく。 村ごと6次産業化に向けて、産業間連携が図られるよう、本プロジェクトの意義を村内向けにPRする。 酒蔵開業後に、学校教育との連携を進められるよう、教育委員会及び白川郷学園と調整を進める。							